

2019年度 自己評価シート

認定こども園 おりーぶの森

1. 教育・保育理念

子どものよりよい成長と発達を願い 子どもには楽しさを 保護者には安心を 第一義に考え 地域になくてはならないこども園を目指す

2. 教育・保育方針

発達を促せるように、一人ひとりを大切にする

- ・生きぬく力、人のいたみのわかる 子どもを育成する
- ・自己肯定感、自尊心の持てる 子どもを育成する
- ・仲間とあそぶことにより、社会的な人格を形成するための基礎を育成する
- ・自然に触れることにより、子どもの感性を育成する

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取り組み内容	自己評価
職員間の共通理解を図りながら、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、園の理念・方針にしたがい、全体的な計画を編成・実施している。	教育・保育要領を理解し、保育の中でどのように反映させていくかを職員会議や園内研修などの機会に職員間で話し合い、活かしている。	A
指導計画は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、全体的な計画、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	全体的な計画、教育課程をもとに、年間指導計画、月間指導計画、週案等を作成、0,1,2歳児においては個別に作成している。自身の日々の保育、子どもとのかかわりを振り返ると共に、子どもの育ちや成長をしっかり捉え、子どもの成長、興味関心に基づいて作成している。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育の中でのエピソードなどから、子どもの育ちを捉え振り返っている。子どもの主体性を大切に考え尊重し、興味関心を十分満たしていけるような環境構成や、子どもとのかかわり方の工夫を日々考え、保育の充実に努めている。	A
各クラスの成果と課題を報告する。	日々のミーティングや職員会議で、保育の中でのエピソードやクラスの様子などを報告し、共有することで子どもへの理解を深めたり各クラスの保育内容を把握している。また、支援の必要な子ども、保護者についても情報を共有し全職員で一貫した支援ができるよう努めている。	A
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	成長過程にあり、日々様々なことを学んでいる子ども一人ひとりの個性や個人差を理解し、受容、共感しながら十分認め伸ばしていく。	A
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子ども同士でのあそびの中で、共通の目的を持って相談したり工夫するなど、意欲的にあそびを広げている。さらに遊びの充実のための環境整備や保育教諭の感性豊かなかかわりが必要である。	C

<p>規則正しい生活習慣の定着、手洗い・うがいの定着等に向けての指導を行う。</p>	<p>看護師による保健指導を行ない、からだのしくみや生活習慣について学ぶとともに、手洗いの実践等を行っている。また、歯科衛生士による歯磨き指導を行い、自分の体に向き合い大切に考えられるような機会を設けている。</p>	<p>B</p>
<p>季節の草花を園庭に植える。 生き物を飼育する。 各コーナーのおもちゃ、絵本の充実を図る。</p>	<p>園庭には、草花や木々があり、季節ごとに草花や虫などに触れ、あそびにも取り入れている。また子どもの興味関心や発達にあったおもちゃや絵本を取り入れ、子どもが自主的に図鑑で調べるなどの充実に繋がっている。</p>	<p>C</p>
<p>行事は、全体的な計画、園の理念・方針を踏まえ計画し、目標・実行・評価・改善のサイクルを確立する。</p>	<p>行事指導案を作成し、ねらいや内容について明確に示し、指導案に基づいて行っている。評価、反省、改善点等は端的にまとめ職員で共有し、次年度へスムーズに繋がるようにしている。</p>	<p>B</p>
<p>衛生管理を徹底し、感染症の予防と集団感染を防ぐ。</p>	<p>看護師による毎日のドアノブの消毒、おもちゃの洗濯や消毒、また必要に応じて行なう、保育室の消毒などを徹底し、感染症の予防や感染を防いでいる。</p>	<p>B</p>
<p>特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援をする。 家庭、医療機関、関係機関等との密な連携を図る。</p>	<p>特別な支援が必要な子どもに対しては、家庭や関係機関との連携を図りながら、個別の指導計画を作成し、支援にあたっている。個々の発達を十分理解し、他児とのかかわりの中で成長していけるようかかわっている。</p>	<p>A</p>
<p>小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。</p>	<p>近隣の幼保小との会議に参加し、積極的に取り組んでいる。小学校の生徒を園に招いて交流を持ったり、5歳児は小学校を訪問し、運動会の練習風景を見学するなどを行うことで、スムーズな接続を図っている。</p>	<p>B</p>
<p>職員の安全管理の意識を強化する。火災・地震などの災害発生時、不審者侵入時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。防災・防犯マニュアルを策定する。</p>	<p>毎月の避難訓練やその他訓練を行ない、非常時に対する意識を持てるようにしている。防災、防犯マニュアルにて、災害時、非常時について周知している。不審者に対する対応は模擬訓練を行うことで、職員の意識を高めた。</p>	<p>A</p>
<p>園だよりやホームページ等で、教育・保育の状況を伝え、保護者と情報共有を図るとともに、理念・方針への共通理解を図る。</p>	<p>行事の様子やエピソード、ドキュメンテーションなどを園だよりやホームページ等でわかりやすく伝えている。送迎時には子どもの様子を保護者に伝え、共に成長を喜ぶ機会になっている。教育・保育理念の共通理解は難しい部分があり、まだ十分とはいえない。</p>	<p>B</p>
<p>地域の子育て家庭に対して、子育てに関する情報の提供や気軽に集える交流の場を提供している。</p>	<p>子育て支援「たんぽぽのへや」を週2回、園庭開放を週に1回行っている。子どもの主体的な遊びを大切にし、その重要性を伝えるよう心がけている。また、助産師による保健相談や育児相談等、母親に寄り添い支援を行っている。</p>	<p>B</p>
<p>教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。また、各研修会や研究会に積極的に参加し、職員に情報提供や資料提供をする。</p>	<p>全職員での園内研修を充実させ、職員間の共通認識を図っていくとともに、キャリアアップ研修やその他の園外研修にも積極的に参加している。学び続ける姿勢を大切にし、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。</p>	<p>A</p>
<p>職員の心得を熟読し、職員としての質の向上をはかる。</p>	<p>一人ひとりが十分自覚を持って、子ども、保護者、職員とかかわり、当事者意識を持ち、主体的に保育に当たるようにしている。さらに向上心を持って取り組んでいく必要がある。</p>	<p>B</p>

4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
おりーぶの森の全体的な計画、教育課程、年間指導計画をもとに子どものよりよい育ちを目指し保育を行った。園内研修では、教育・保育理念を職員全体で改めて確認、共有し、共通理解を図った。また、育児担当性による保育についての重要性の共有や、実際の保育の中での事例について一つひとつ確認し共有をした。子どもとのかかわりの中で大事にしていかなければならないことを再認識することができた。しかし、延長保育、土曜日保育の充実、保育環境の充実についてはさらに改善していく必要がある。	B

「3. 4. 」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者も含めた、教育・保育理念の共通理解を図る	職員の資質向上の取り組みとして、園内研修の充実をさせるとともに、保護者に対してもより良い子どもの育ちについて伝え、教育・保育理念の共通理解を図る。教育・保育理念のもと、園と保護者がともに協力し合い、子どもの育ちを見守っていく。
全体的な計画、年間指導計画、学校安全計画、学校保険計画、食育計画に基づいた保育の実践	各計画を共通理解のもと、年齢ごとの発達を捉えた上で日々の保育に反映させ、子どものより良い育ちを保障していく。
室内環境、園庭環境の充実を図り、保育環境の向上を目指す	室内遊びのコーナー作りの工夫と年齢ごとの発達や興味関心に合ったおもちゃを用意するなど、遊びの環境を充実させる。園庭の環境では、砂、土、泥あそびがさらに広がるような道具や素材を充実させていく。子ども達の興味関心を満たし、感性を引き出せる環境整備を心がけていく。
延長保育・土曜保育の充実	朝と夕の延長保育、土曜保育の流れや環境、食事、おやつを進め方、あそびの充実を図る。
育児担当性の保育の充実	未満児においては、緩やかな育児担当性の保育を行い、一人ひとりを大切にしていく。クラスの職員同士の連携を密にし、スムーズな生活の流れを作っていく。
子育て支援の充実	週2回の子育て支援では、子どもの発達における興味関心が十分尊重できるような環境を整える。保育教諭、助産師が担当することで、専門性を活かしながら、親子が集える場所を作っていく。園庭開放では、園全体で暖かく受け入れ、園児とのかかわりを大切に見守っていく。